



令和 5年 5月23日

ご関係の皆様方へ

大阪市立大隅西小学校
校長 原 雅 史

「主体的対話的で深い学び」のある授業づくり研究

大隅西小学校 第1回 全市公開授業のお知らせ

(兼 学力向上支援チーム事業 研究授業)

新緑の候、貴職におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は本校の教育活動にご理解・ご協力を賜り、まことにありがとうございます。

2020年に新学習指導要領が小学校で実施され3年が過ぎました。本校ではこの要領が掲げる「主体的・対話的で深い学びのある授業（＝学び合い）」づくりを研究テーマに据えて、日々研鑽に取り組んでいるところです。

今年度は「全市公開授業」「ビデオ授業研究会」「公開研修会」を行い、多くの先生方にご覧戴き真摯なご意見等を頂戴できればと考えております。各校体育大会、修学旅行など学校行事でお忙しい時候かと存じますが、「主体的対話的で深い学びのある授業」の実践事例の1つとして、ぜひご見学いただき、皆様とともに学び合えますことを願っております。どうぞお気軽にご参加くださいますようお願い申し上げます。

1 開催日時

- ・実施日 6月21日（水）
- ・中心授業 6年1組 教科：国語 「海のいのち」 授業者：大槻 伸城
- ・スーパーバイザー 石井 順治 先生（元四日市市立小、中学校校長）
著書 「対話的学び」をつくる、教師の話し方・聴き方 など

2 会 場

大阪市立大隅西小学校（大阪メトロ「瑞光4丁目駅」下車 南東へ200m）
大阪市東淀川区大隅2-3-18 電話 6328-6557

3 公開授業 時程（公開授業①②では全学年全クラスで公開しています）

10:00 10:50 11:35 11:45 12:30 13:50 14:35 14:50 15:40 17:00

受付	公開授業 ①	公開授業 ②	休憩	中心授業	休憩	研究 協議	スーパーバイザー 講話
----	-----------	-----------	----	------	----	----------	----------------

※公開授業だけでも、中心授業からでもご参加いただけます。昼食は各自ご準備ください。

※ビデオ撮影を希望される方は受付でおっしゃってください。研究用としてのみご利用いただき、SNSなどへのアップはおやめください。

※授業中は授業の妨げにならないよう、

- ・後ろ、前、横からのみご覧ください。（子どもの中には入らないでください）
- ・児童には話しかけないでください。

4 申込方法

① スキップメール 大阪市立大隅西小学校 教頭 前田 博己 まで
② FAX 別紙のFAX送信票でお申し込みください。

■ 大隅西小学校 研修会・研究会の予定

下記の研修会、研究会は原則全て公開しております。

参加を希望される先生は、上記同様本校へご連絡ください。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

月	日	曜	全市公開	ビデオ研	校内研修	公開研修会	講師	担当・授業者	
4	3	月			1		校長	学び合いとは 1	
	10	月			2		校長	学び合いとは 2	
	26	水		1				高：6年1組 算数	
5	17	水		2				中：3年2組 算数	
	23	火					校長	師範授業 3年算数	
	24	水			3			年間研究予定	
6							校長	師範授業 国語	
	7	水			4		校長	教材研究会（海のいのち）	
	21	水	1				石井 t	全学級（特支は任意）	
							校長	師範授業 3年算数	
7	5	水		3				低：2年1・2組音楽	
8	22	火				1	校長	社会科、算数 模擬授業 （兼 東淀川区教育研究会）	
	24	木				2	校長	国語授業ビデオ研修会	
8	25	金			5		校長	2学期に向けて	
9	13	水		4				第4回ビデオ研（詳細未定）	
10	25	水		5				第5回ビデオ研（詳細未定）	
11	15	水			6		校長	教材研究会	
	30	木	2				石井 t	全学級	
12	6	水		6				第6回ビデオ研（詳細未定）	
1	17	水		7				第7回ビデオ研（詳細未定）	
	31	水			7		校長	教材研究会	
2	14	水	3				佐藤 sv	全学級	
3	6	水		8				第8回ビデオ研（詳細未定）	
	22	金			8		校長	1年間のまとめ	

「主体的・対話的で深い学びのある授業」づくり

1 学力を伸ばす「学び合い」

新学習指導要領が完全実施となり2～3年がたちました。義務教育の9年間は「**これまでと全く異なる指導方法を導入しなければならない**（新しい学習指導要領の考え方 2017 年文部科学省 p19 より抜粋）」ことになったのですが、新学習指導要領のお取り組み状況はいかがでしょうか？

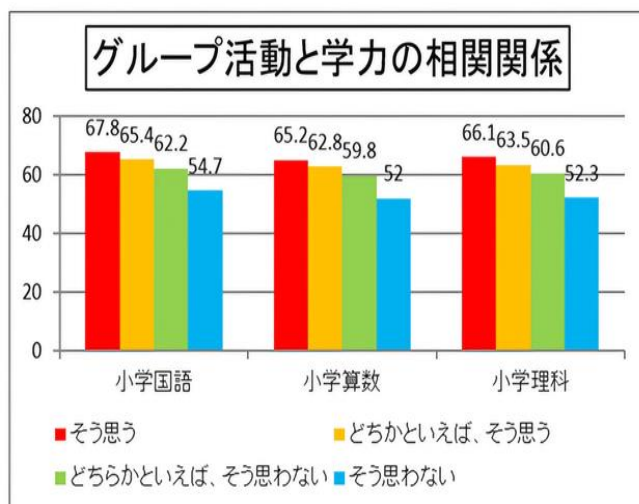
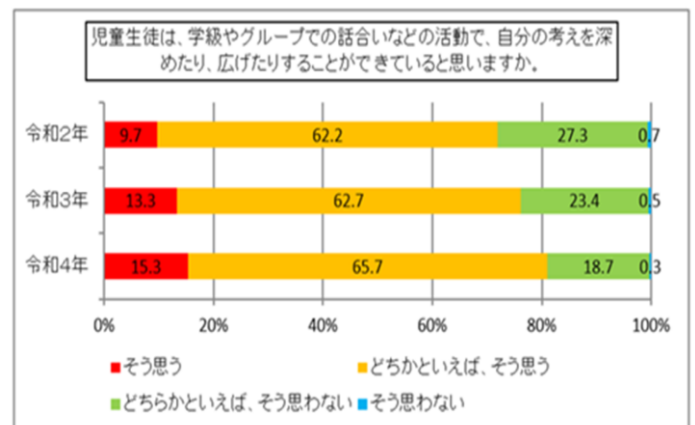
私は令和3年度、大阪市教育局第3教育ブロック学校支援事業「学びの共同体」づくりのスーパーバイザーとして、感染予防に留意しながら、多い学校はでは年間4回も訪問するなど、合計21校を訪問しました。おかげさまで何度も訪問している学校では、授業がどんどん変わっていきまして、子どもたちが「主体的・対話的で深い学び」（＝学び合い）ができるようになっていきました。

しかし同時に、「やらないといけないとわかっているのですが、なかなか具体的な方法が見つからず…」「今年度は周年行事とかぶっていて…」など、なかなか学び合いへの授業改革が進んでいない学校も、少なからず存在している状況も見えてきました。

各校様々な事情を抱えているかと思うので、新学習指導要領を急いで進めるのが決して良策とは思いませんが、そろそろ大きく舵を切っても良い頃になってきているのは間違いないと、私は確信しております。その理由を2つ述べます。

右のグラフは、令和4年度全国学力・学習状況調査の結果（概要）から抜粋したものです。授業で単なるグループ活動ではなく、それを通じて、自分が学べたのかを示したものと捉えられます。

表の中で「そう思わない」は全くグループ活動をしていない割合と読み、その隣の「どちらかといえば、そう思わない」も含めると、令和4年度で19%の学校でまだ十分なグループ活動が行われていないことになりますが、皆



様の学校ではいかがでしょうか。逆に言いますと全国的には81%の学校で、効果の高い本格的なグループによる学習活動が行われているということですが、私がスーパーバイザーを務めさせていただいた令和3年度、この大阪市ではそこまでの数字には至っていないのではと体感しています。なぜ、大阪市ではグループを活かした学習活動が進まないのでしょうか。

左は、同じく令和4年度全国学力・学習状況調査の結果（概要）に掲載されているもので、グループ活動をすればするほど、学力が高くなっていることが明確になっています。左の表の「そう思

わない」グループに属している学校におかれましては、本格的なグループによる学習活動を実施するだけで、10ポイント程度の学力はすぐに上昇する可能性があることが、データ上明らかになっています。なぜグループによる本格的な学習活動が進まないのでしょうか。

「主体的対話的で深い学び（学び合い）」のある授業は、グループによる本格的な学習活動だけではないのですが、子どもが主体的に、そして子ども同士で対話しながら授業をつくっていくには、グループで進めるのが一番効果的であると言えます。

全国では81%の学校が学び合いのために、グループの学習活動を取り入れるようになってきました。大阪市でもその授業改革の波に乗っていくことが重要ではないでしょうか。しかも、「1時間の授業のうち5分10分だけグループにした」「1週間の授業のうち少しだけグループにした」のでは、本格的に実施したとは言いません。毎日、毎時間、授業時間の大半をグループで進めている学校が、全国では81%にもなっており、その割合は年々増加傾向にあります。そろそろ皆様の学校におかれましても、本格的なグループ学習、学び合いを取り入れてもいい時期にきているのではないのでしょうか。

そして、学力です。いま、大阪では様々な学力向上の取り組みが進められています。どれも一定の効果はあるかと思います。そして「学び合いのための授業の改善」「指導方法を子ども主体のグループ活動にする」という学力向上にストレートに直結した取り組みを、さらに重点的に実践していく必要があると思います。先行実践された沖縄県の例をみれば明らかですが、大阪市の学力を劇的に向上させるには、本格的なグループ学習を実践していく授業改革を、行っていくしかないのではないのでしょうか。

本校では、今年度より本格的にこの「学び合い」に取り組みはじめました。決して完成した、パーフェクトなものではありません。でもだからこそ、一度ご覧いただき、「学び合いって、こんな感じでいいのか」と小さな勇気を持ってもらえたらと願い、さらに私たちに厳しいご指導ご鞭撻をいただけましたらと願っております。

2 学 び 合 う 「 課 題 」 と 「 音 読 」

主体的・対話的で深い学び（学び合い）の授業は、文部科学省も述べているように、今までの授業とは根本的に異なっています。

「主体的」ですが、これは「教師が教える」のではなく「子どもが学ぶ」ことを中心に授業を進めるということです。言葉の上では簡単ですが、実践するのはとても大変です。と言いますのも、今までなら教師が主体となって授業を進めていますので、子どもが集中していなければ、教師が注意、指導すればよかったのです。ところが、子どもを自ら学ぶようにもっていくのは、教師が叱ろうが、諭そうが、子どもが自ら取り組まねば、全く意味を持ちません。

イギリスのことわざで、“You can take a horse to the water, but you can’t make him drink.”「馬を水場に連れて行くことはできるが、馬に水を飲ませることはできない」というものがあります。教育においても同様で、私たちは子どもを学ぶ場所に連れていくことはできますが、子ども自らが、学ぶかどうかはわからないのです。では、いったいどうすれば、子どもは自ら学ぶようになるのでしょうか？ 科学と文学の面で具体的方法を紹介いたします。

1) 科学分野（算数・数学、社会、理科など）の学び合い

結論から申しますと「課題レベルを上げる」と子どもは、驚くほど主体的に学ぶようになります。今までは、基礎基本を丁寧に教え、それができないと応用問題は解けないと考え、課題レベルを上げることに消極的な先生が多くおられました。その結果、全員がすぐに解ける容易な問題を出すことが多く、学力の向上がなかなか進まなかったのではと推察します。

当たり前ですが、人は教えられて賢くなるよりも、自ら考えて賢くなる部分のほうがはるかにたくさんあります。私は学び合いに取り組む全国各地の学校で「クラスの誰もがわからないレベルの難しい課題」に、全員が夢中になって取り組むシーンを、何度も見てきました。俄かには信じがた

いことだと思いますが、子どもは我々が考えている以上に難しい課題を好むのです。こればかりは、実践してみないとわからないと思います。

これらの理由はよくわかっていないところもあるのですが、最近の研究結果では、「基礎が定着したからといって、応用問題ができるわけではない」ことは明確になってきました。「学力は転移しない」という原則です。それゆえ、新学習指導要領では、「子どもがどのように学力をつけていくのか」という、子どもの学び方を丁寧に解説した「総論編」に力点が置かれ、また全国学力・学習状況調査ではA（基礎）問題がB（応用）問題に統合されました。基礎基本を軽視するわけではありませんが、実際社会に出て、役に立つ応用問題を解く力の育成に重点が置かれ始めたのは間違いありません。なおさら、子どもが難しい課題を好むのなら、そこに学習の中心を置くようになってきたのも、自然の流れと言えるでしょう。思い切って、難しい課題を子どもに出してみてください。全ての子どもが驚くほど熱心に取り組む姿勢を見ることができるようでしょう。

なお、課題の難易度はしっかり見極める必要があります。目安として、クラスの誰一人としてパッと見ただけではできない、グループで聞き合わないといけない難易度で、しかも全ての子どもが興味関心を持てる内容でなければなりません。

こう考えますと、従来の課題レベルはやはり大半が簡単過ぎたように思います。ペアやグループにすると、すぐに解き終わり、そのあとは私語や雑談の時間となることも多く、この結果、学び合いの授業に否定的な考えを持つ先生が、少なくありませんでした。

このように、難しい課題をだしたあと、授業者がなすべきことはなんでしょう。それは「足場をかける（Scaffolding スキャフォールディング）」という教育活動です。単なるヒントではなく、子どもがさらに上のステップへ進めるようにする一時的な支援活動です。行き詰っているグループに寄り添って、困り感を聞き、それを全体化していきます。「ここまではわかっているみたいなんだけど、ここで困っているそうです。どうしてここで困っているか、みんなで考えてあげられますか？」のように、一人の子どもの困り感を全体で共有化していくような支援活動です。従来は、正解を求めて、わかった子どもを指名し、答えを述べさせる展開が多かったと思います。しかしこれではわからなかった子どもは、答えこそ獲得しましたが、なぜそうなるのかがわからず、本当の意味でわかったことにはなっていません。大阪市の教育振興基本計画の基本的な方向の一つである「誰一人取り残さない学力の向上」にも掲げていますように、このわからなさの共有とスキャフォールディングは、学び合いでは最も重要な教育活動と言えます。

ぜひ難しい課題を子どもたちに出し、スキャフォールディングを試みてください。学び合いの学びは、ここから始まると言っても過言ではありません。

2) 文学の学び合い

子どもを主体的に学ばせる、もう一つの方法として国語（特に文学）の授業における「音読」を中心とした授業を紹介いたします。それなら既に実践しているという声も聞こえてきますが、学び合いにおける「音読」は従来のものとは少し違います。

音読は子どもが集中しやすい、最も主体的な学習方法の1つです。単に声に出して読めばいいのではなく、一音一音とばすことなく、丁寧に、そして繰り返し読んでいくことが重要です。また朗読との違いも明確にしておく必要があります。音読は自分が音を出し、その音を自分が聞くことが重要なのです。そうすることで、より文脈を読み描くことができ、その世界観にひたれることができます。私たち大人でも、何かの説明書、契約書などを、より正確に読み取りたい場合は、自然と音読していると思います。それと同じです。

音読にかかる時間も、45分の授業なら最低でも授業開始の12分は音読をいれたいものです。そのあとも何度もテキストに戻り音読し、トータルで25分ぐらい音読することを推奨します。そして、繰り返し、繰り返し読む度に、文学の世界に入り込んでいきますので、最後はスラスラではなく、じっくり時間をかけて読んでいくようになるのです。

また、1人で音読することが難しい子どもが多いクラスでは、「ペア読み」でじっくり取り組む必要があります。学級全体で一斉に読む「一斉読み」では読んでほしい子どもほど、しっかり読む

でないものです。その点ペア読みにしますと、お互いに読みをサポートしながら読んでいきますので、全員が確実に読んでいきます。

そのペア読みも、句点毎に交代する「〇読み」、交代しないで後から追っかけて読む「追い読み」、そして2人が同時に読む「重ね読み」などがあります。

また、これらに慣れてきましたら、1人で自分のペースで読む銘々読みなどに取り組みますと、一層主体的な音読となります。なお、この場合、読み終わった子どもの指導をどうするかというポイントがあるのですが…。

また、読んでいるところを指でなぞりながら読む（なぞり読み）と、一層音読の効果が上がります。

こうして、じっくり読み込んでいきますと、子どもは自分が読み描いたことを、他者と交流したくてたまらなくなります。そこで「お隣の子と少し聞き合ってみて」と促すと、子どもたちは堰を切ったように話し合っていきます。5～6分の音読では、ここまでのレベルにはならないか、テキストから離れた部分に焦点があたり、ポイントのぼやけた交流になりがちです。子どもを、音読でたっぷりテキストに出会わせることで、深い読みの世界に入らせることができるのです。

また、主体的な音読活動は、自然と子ども同士の対話にもつながっていきます。さらに、この対話を重ねていくことで、「へーあなたは、そんなふうに感じたの？ 私は少し違って…」「みんなとだいたい同じ考えだけど、ここだけは少し違うかも…」など、文章に対する深い学びにも寄っていきます。

このような丁寧な音読の学び合いで、授業者がなすべきことはなんでしょうか？それは「ひろう」「つなぐ」「もどす」の3点です。授業者は、音読のあとの子どもの声を聞き漏らさず「ひろう」ことが重要です。子どもが読み描いた言葉や、授業者の発問に対してのつぶやきの中にこそ、物語の真髓が眠っていることもあります。テキストから離れていない限り、子どもの言葉を大切にし、寄り添っていくような感覚で授業を展開していきます。

そして、すぐに他の子どもの意見を求めるのではなく、その意見を軸につないでいくことが重要です。そのためには「今の考えに、つなげられる人はいますか？」などの発問で、一人一人の考えを大切にしながらも、他者とのつながりの中にこそ、学びの種が眠っているのです。さらに、このように最初こそ、授業者が「子どもをつなぐ」展開をしていく必要がありますが、これを何度も重ねていきますと、子どもは自然と子ども同士でつないだ意見を出すようになります。

さらに、ひろう→つなぐ→ひろう→つなぐ…を重ねていきますと、途中で詰まることや、テキストから外れた方向に向かってしまうこともあります。そのとき、授業者がその状態を指摘して、指導するのではなく、もう一度音読に戻して子どもの読みで整うように持っていきたいところです。そうすると、「あっ！」といて、音読の途中で読みの誤りに気付く子もいたり、音読の後の聞き合いで「そういうことか」と理解が深まる子も現れてきます。音読に戻す→ひろう→つなぐ…と、子どもの学び合いが再び進んでいくのです。

Only learning teachers are blessed
with happiness of teaching profession.

F A X 番 号 0 6 - 6 3 2 8 - 6 3 5 2

全市公開授業・ビデオ授業研究会の申込 参加申込書

送付先 大阪市立 大隅西小学校
 教頭 前田 博己
 T E L 0 6 - 6 3 2 8 - 6 5 5 7
 F A X 0 6 - 6 3 2 8 - 6 3 5 2

送付元	所属名(学校名)				
	ご担当者				
送 付 期 日		各公開授業・研究会の2日前まで			
件 名		全市公開授業・ビデオ授業研究会の申込			
参 加 者	職 名	お 名 前	参加希望日		

【お問合せ先】

大阪市立大隅西小学校

(電話) 06-6328-6557

教頭 前田まで